

新型コロナ 陰圧テント貸し出し

宮坂建設 地域貢献で購入

宮坂建設工業帯広市、宮坂文社長は、医療用陰圧テントを導入した。陰圧テントは新型コロナウイルスの拡大を防ぐ効果がある。非医療機関が同様のテントを導入するのは道内では珍しい。地域貢献の一環として、会費簡易発表した。約30人が参加した。

同社は新型コロナ対策工事現場を主体、医療機関向けに医療用マスク3000枚、防護服700着を寄付する。独自の取り組みを続けてきた。一連のコロナ対策に約4500万円を投入している。

大隅工業 本社東京・大阪の医療用陰圧テント3セットと、陰圧機能なしのテント1セットを購入。テントは二つの部屋を区別し、扉が閉まると自動的に陰圧が維持される。扉は高さが2.5メートルあり、扉の奥行きがある。陰圧された部屋はウイルスが外に広がるのを防ぐことができる。医療機関が陰圧テントを病棟外に設置し、外来受付に用いられ、一般の患者が新型コロナに感染した疑いのある患者を分けるとされている。

大隅工業は新型コロナ流行以降、医療用陰圧テントを約300件受注したが、医療機関以外の企業・団体が道内で導入したのは初めてという。

宮坂社長は、「行政などの補助金を持つては購入が間に合わないと考え購入を決めた。必要なら有効活用してもらいたい」としている。(本田龍之介)



宮坂建設工業が導入した陰圧テント。内部は大人の身長ほどの高さがある(16日午前11時ごろ、小山田竜士撮影) ▶動画は電子版で

陰圧テント 医療機関に

帯広・宮坂建設 3基無償貸し出し

帯広市宮坂建設工業(帯広)は、新型コロナウイルス感染症拡大に備え、ウイルス拡散を防ぐ医療用陰圧テント3基を購入し、十勝管内の医療機関などへの無償貸し出しを始めた。

陰圧テントは高さ2・5メートル、待合室(約10平方メートル)と陰圧室(約20平方メートル)に分かれている。陰圧室の気圧を陰圧機で下げてウイルスが室外に漏れることを防ぐことができる。

宮坂社長は「十勝のインフラ企業として地元へ貢献したい」と語った。(鈴木宇星)



【帯広】宮坂建設工業(帯広)は、新型コロナウイルス感染症拡大に備え、ウイルス拡散を防ぐ医療用陰圧テント3基を購入し、十勝管内の医療機関などへの無償貸し出しを始めた。

陰圧テントは高さ2・5メートル、待合室(約10平方メートル)と陰圧室(約20平方メートル)に分かれている。陰圧室の気圧を陰圧機で下げてウイルスが室外に漏れることを防ぐことができる。

宮坂社長は「十勝のインフラ企業として地元へ貢献したい」と語った。(鈴木宇星)

ぎ、隔離効果を高める。断熱性や気密性も高く、エアコンを設置して空気の流れを一定方向に保つことで、医療従事者の2次感染を防ぐ。約15分で組み立てられる。定価は1基約600万円。同社は毎年、市民約3千人が参加する防災訓練を開催するなど、防災や安全への取り組みに力を入れており、同管内に陰圧病床が少ないことから導入した。陰圧テントの医療機関向け説明会を16日に開いた宮坂寿文社長(65)は「十勝のインフラ企業として地元へ貢献したい」と語った。(鈴木宇星)

宮坂建設工業 医療用陰圧テント導入

感染防止へ非常時貸し出し

宮坂建設工業（本社、帯広）は16日、BCCPの一環として医療用陰圧テント3張りを購入し、帯広市内の同社構内にて設置作業を実施した。陰圧設備がウイルスなどの感染防止に有効で、非常時に医療機関に貸し出したとしている。

同社は2014年にBCCPを策定し、新型コロナウイルス感染症に対応するため4月にマニュアルを改訂。BCCPの取り組みとして、

医療用陰圧テント導入

感染防止へ非常時貸し出し



みとして稼働中の現場でのテント購入もその一環とテントをそれぞれ装備。15分程度で設置できる。札幌圏でも同社製の同型テントを導入しているという。

太田工業製、前室を含め奥行き7.5m、幅4.5mのテント3張り。遮断関係から対応の第2弾となること説明。医療関係者からほど、陰圧機感染防止に有効なテントの設置を実施した。

集まった医療関係者30人を前に宮坂社長は説明。医療関係者からは「第2、第3弾に向けた対応の第2弾となること説明。医療関係者からほど、陰圧機感染防止に有効なテントの設置を実施した。」

同社では、感染対策として月に紫外線による空気清浄機を業務所に導入する予定だ。(帯広)

宮坂建設工業が陰圧テント購入

医療現場 積極的に支援

設営説明会に関係者多数参加



【帯広】宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は16日、帯広市内の同社構内にて医療用陰圧テント設置説明会を開催した。同社職員や医療関係者など約30人が参加。同社が購入した医療用陰圧テントの設置作業、その性能を確認。同社では、医療機関からの要請があれば迅速にテントを貸し出し、新型コロナウイルスと闘う医療現場を支援していく。

同社は、新型コロナウイルスの今後の感染拡大への備えとして、緊急仮設施設が医療崩壊を防ぐ方法として有効と判断、医療用陰圧テント3セットを購入した。

陰圧テントはテント内部の気圧を外側より低くし、フィルターを通してテント外へ出ることを防ぐ。また、内部では空気の流れを一方にするの性能をその目で確かめた。

このあと、テントの設置を演習参加者は幅4.5m、奥行き7.5mのテント本体がエアの注入によって瞬く間に自立していく様子を目にし、「強風にはどの程度耐えられるのか」など担当者に関心していた。

同社では今後、要請があった医療機関に対して、迅速にテントを貸し出していく考え。

ことと医療従事者の二次感染が起るにたい構造となっている。テントを積極的に入れて設置すると、ウイルス感染の疑いのある患者と一般外来患者を分離し、診察することが出来る。

説明会には、同社従業員30人が参加した。

宮坂社長は、地域のインフラを守る防災策としてマスクや防護服の寄贈などを行っていることによいながら、今回の陰圧テント購入については「我々建設業も医療機関にはお世話になっている。要請があれば積極的に対応していきたい」と語った。

武山純務部長は、これまでの同社の感染症対策について説明。感染拡大防止の観点から、全社員への特別休暇の付与や協力会社への独自の経営支援相談窓口の開設などを実施していること、医療機関や介護福祉施設に対してマスクや防護服、消毒液などを寄贈したことを紹介した。